

国民年金保険料の

特例納付は六月限り

国民年金保険料の納付書は今まで三か月に一度発行していましたが、四十七年度からは一年分の納付書を一回に発行することになりました。この納付書は徴収員の皆さんに保管して頂きますが、徴収は従来どおり三か月に一度となりますので納付月になりましたら忘れず納めてください。

国民年金の納付には、老令年金、通算老令年金、障害年金、母子年金、準母子年金、遺児年金、寡婦年金、それに死亡一時金とがあります。これらの給付を受けるためには、保険料をきちんと納めていることが要件となっています。保険料を納めていないと、万一の事故の場合に障害年金や母子年金が受けられないほか老後の安定のための老令年金も受けられないということになります。納めたつもりでも案内納め忘れていたということが多いものです。もう一度、領収書などを調べてください。保険料を毎月納めることが面倒な方のために一年分の保険料をあらかじめ納めておく前納制度があります。前納すると割引がされ保険料が安くなるうえ、万一事故にあっても、納め忘れた為給付を受けられないということがなくなります。また所得がなくとも保険料を納められない方のために、保険料

建設のあゆみ

4 月 ~ 5 月

完成した事業

- ① 道路舗装工事 405 m
- 宮前立合線

5 月着工及び工事中の事業

- ① 道路舗装工事 571 m
- 三島地先 214 m
- 古川地先 1,812 m
- 上町鳥喰新田 (オールカバー)

を免除する制度があります。この保険料の免除を受けた場合の老令年金の額は、保険料を納めた期間の年金額の 1/2 となります。保険料の免除を受けた方は、将来資力が回復したときに、以前に免除を受けた期間の保険料で十年前までの分を納めることができる追納制度があります。保険料は滞納したまま二年を経過し、時効によって納付できなくなりますが、今回に限り

満額年金をもらえなく受けていたため、過去の時効によって納められなかった保険料を特別に納めることができる措置があります。この、保険料納付の特例措置によって過去の保険料を納めることができる期間は、昭和四十七年六月三十日までです。年金を確保できる最後の機会です。あなたや、あなたのご家族の年金は大丈夫でしょうか。今一度確認してみましょう。

税金のかか

らない連年

贈与の範囲

贈与税の基礎控除は四十万円です。しかし、同じ人から毎年四十万円をもらうと税金の問題がこります。これは累積課税といって、四十万円の基礎控除を利用し、ほかの人より税金を軽くしようとすると人をなくすためです。

累積課税とは、三年以内に同じ人から各年二十万円をこえる財産をもらった場合に、二十万円をこえる部分の金額について課税しようというものです。

ただし、累積課税の適用を受ける場合であっても、四十万円の基礎控除は三年に一度適用されますから第一目四十四万円、第二目二十万円、第三目二十万円と連年贈与すれば、まったく税金はかかりません。

募 集

男女警察官



千葉県警察では、若い優秀な男女警察官を多数募集しています。

資格は、高等学校卒業程度以上の学力のある方で、昭和十九年八月二日から昭和十九年八月一日までに生まれた者です。

受付期間は、昭和四十七年五月二十日までですが、詳しくは、県警察署、若しくは近くの駐在所でお尋ね下さい。

日赤募金で 明るい社会

五月一日から、日赤共同募金運動が展開されています。この募金は、日本赤十字社のモットーである相互扶助の精神に基づき実施する、災害救護事業、血液事業、児童の保護、巡回診療等の費用にあてられます。例えば、火災にあつて着のみ着のまま焼け出された場合、寝具や洗面用具、学用品など急救用品の援助または、献血運動を行って、

病人や重傷者の輸血に役立てたり、巡回診療や健康相談を行って地域住民の健康保持を図るなどの資金になります。横芝町では、昨年度目標額二十二万円に対し四千円余り超過する御支援をいただきました。本年度も、皆様方の温かい御協力をお願いして、日赤事業の充実活発化を促進し明るい健康な社会を築いていただきたいと思います。

横芝俳壇

横芝句会四月例会

- 土屋栗水 根分けして残りし菊を捨て感
- 石川奇水 入学の児の目に大きな校舎かな
- 玉虫たけし トンネルを出れば菜畑また続く
- 田島千女 麦笛を吹きてみどりの道のど
- 藤代ゆう か 入学の荷造り終えし子の寝顔
- 木下石果子 夕桜買物籠に散りかかり
- 安井ゆずる 春愁や座居子の肘の破けぞま
- 奥山萌古 菜の花や野仏尊の欠けしまま
- 鈴木暁風 開ききって木蓮風にもまけり
- 古谷紅雲 入学児呼び名と違いまごつけ
- 堀江狸溪 花菜晴れ軽く押し行く乳母車
- 三枝句城 菜の花の明るさ嘘を取り消しぬ
- 加藤庄長 菜の花や房絵東線海眩し
- 佐久間久子 すまし汁菜の花入る安房の宿
- 鈴木蘭堂 菜の花や山の入陽も黄に染まる